

(こくさいか山口 2005年4→6月号掲載記事)

～ピンポン外交？私の「草の根交流」～

下関市総合政策部国際交流課
(釜山広域市派遣職員)
古川 力

釜山における生活もあっという間に1年を過ぎました。このままうっかりしていると赴任予定期間の2年間など、一瞬のうちに終わってしまいそうなので、気を引き締めてやらねば、と気合いを入れなおしているところです。

韓国に来て、何らかの余暇活動をしたいと思っておりました。できればサムルノリやテコンドーのような韓国伝統の音楽やスポーツを勉強したいとも思っていたのですが、職場である釜山市役所に、職員サークルがいくつかあり、その中に英会話部と卓球部があることを知り、下関でも続けていたものでもあるし、帰国後も続けられるということも考え、生活が落ち着いた昨年初夏頃から2つのサークルに入ってそれぞれの仲間と練習を楽しんでいます。

英会話部の活動は週1回。毎週水曜日のお昼に集まって食事をしながら前もって指定された題材をもとに、英語でディスカッションをします。「日本人は英語が話せないのでは？」という釜山市の職員の皆さんの“偏見”もあったようで、最初はびっくりされていた人もいらっしゃいましたが、2年間韓国語漬けになって英語が錆び付かないよう、特段の行事がない限り、週1回の活動に参加するようにしています。うれしいことに、昨年11月には下関市役所の英会話部の有志6名が休暇をとって釜山市を訪れ、通訳のお世話にならずに、「英語」を通じての両市職員の交流も行われました。



両市役所英会話サークルの交流風景
交流会はすべて英語で行われました

一方、卓球部の活動は退勤時間の午後6時以降、毎日行われています。うらやましい話ですが、市庁舎の26階にスポーツジムやシャワー室が備えられているので、やる気になれば昼休み、退勤後といつでも利用が可能です。さすがに私は毎日やることはできず、結果的には週1回程度ですが、汗を流すことなどでストレスの解消もでき、韓国のおいしい食事による肥満防止?にも役立っています。感覚的な話ですが、韓国は日本よりも卓球を楽しむ人が多く、卓球部の部員もたくさん練習に来られるため、知人も一気に増えました。

卓球部でも関釜の交流が実現しました。昨年末頃から「下関市役所の卓球部と交流試合をしに行こう」という話が持ち上がり始め、ついに去る3月にそれが実現しました。下関まで本当にみんなが来てくれるのだろうか?という不安は、関釜フェリーに乗るまで消えませんでした。本当にそれが実現しました。交流試合の結果は接戦の末、釜山市が4対3で勝利。受け入れ側も手弁当でしたが、「できることを精一杯」のおもてなしをしたことで釜山市の参加者(9名)はもとより下関市の参加者にとっても忘れられない思い出をつくることができました。釜山市メンバーから「行ってよかった。素晴らしい思い出ができた。今度は是非下関から釜山に来てください」と言われた時は、言葉で言い現せないほどの喜びを感じました。下関市側も「今度は勝利を」と意気込んでいます。



両市役所卓球部の交流試合風景(左)と記念写真(右)
こちらは「卓球」という言葉で親睦が深められました

また、この2月には、釜山市のおとなり、蔚山(ウルサン)市で、この5~6月に行われるIWC(国際捕鯨委員会)蔚山会議にボランティアとして配属される予定の皆さんと、2002年下関会議の際に活躍した「語学ボランティアとの交流」といった行事も実現しました。この行事では、蔚山の皆さんから「先輩の下関に学ぼう」ということで、下関会議当時のボランティアで構成されるボランティアサークルが招請を受け、現在も語学ボランティアを続けている8名が訪問し、当時の経験等を熱く語りながら交流を行いました。

2005年は日韓国交回復40周年の記念すべき年、「日韓友情年」です。日韓両国がさらなる交流を深め、お互いの理解を深めようとしていた矢先、2月9日のソルラル(旧正月)を過ぎたころから、にわかに「竹島(韓国名:独島)」に関する一連の報道や歴史教科書問題等が反日運動を大きくさせ、交流の中断や訪問のキャンセル、大きなものに至っては姉妹縁組の断絶宣言といった悲しい事態が少なからず起こっています。



語学ボランティアとの交流 於：蔚山広域市

山口県内においてもいくつかこのような問題が起こっているのも事実です。昨年、年間利用客100万人を突破した釜山港国際ターミナルも、昨今なんとなく一時のような活気が無くなっているような気がします。釜山市と下関市との姉妹都市関係においては現在のところこのような事態には至っていないため、正直なところあまり実感がわきませんが、日韓友情年事業はこれまでの交流をさらに深めるための重要な行事が満載だったはずなのに、部分的には影響が出ている状況にある、といったところでしょうか。

本年9月には、関釜連絡船就航100周年を迎えます。長い交流の歴史で結ばれた釜山と下関とは、一時の風に流されることのない強固な関係のもとで将来の日韓関係を引っ張って行って欲しいと願っていますし、そのような関係の構築に少しでも役に立てるよう、仕事に取り組みたいと思います。

一連の問題について、私がここで意見を述べる立場にはありませんが、向こう1年間、韓国に住む日本人として、ここ韓国で何をすべきなのか、しなければならぬのか、ということを実際に考え、実行していかねばならないと思っています。仕事はもちろんですが、仕事以外にもすべきことがたくさんあるような気がしています。韓国と何らかのお付き合いのある皆様には、地元下関市と釜山市、山口県と慶尚南道との交流をさらに進めていくため、「自分に何ができるのかを考えてみる良い機会」が訪れたと考えてみてはいかがでしょうか。

英会話と卓球の交流は、私の仕事とはまったく関係のないものですが、本年度は次のステップ、釜山市役所英会話部の下関市訪問、下関市役所卓球部の釜山市訪問を是非とも実現させようと思っています。英語も卓球も、規模や立場は少々異なりますが、同じ市役所に勤務する公務員として、仕事に関することについても意見交換を行うなど、交流の中身の発展も考えていきたいですし、それらが今後「市民の交流」として続けられるよう、「草の根交流」の一助にできればと思っています。